

優秀賞（国土交通事務次官賞）

（作文の部 小学生）

「身近に感じた土砂災害」

天栄村立湯本小学校 六年 星 拓

ぼくは、最近大雨による土砂くずれがあったというニュースを見ました。そのニュースでは、土砂くずれによって家がつぶされてしまったり、道路に土砂くずれの土砂が流れてきてしまって、通行止めになってしまったりしていました。ぼくはこのニュースを見て最初に「土砂くずれてこんなに怖いものなんだなあ」と、思いました。ぼくが住んでいる地域も、高い山に囲まれ、生活しているすぐ近くにも土砂災害のひがいはありました。

ぼくが気づいたぼくの近くの土砂災害のひがいは二つありました。

一つは、大きくくずれた土砂が、川をせき止めてしまっている場所です。この土砂くずれは、最初にちょっとだけくずれていたものが、地域におきた大きな地震でさらにくずれてしまい、東日本大震災でまたさらにくずれてしまったものです。今では、たて百メートル、横五十メートルの、大きな土砂くずれになっています。川をせき止めている土砂は完全に川のところに積もってしまっている様子です。大きくくずれた時から二年ぐらいたちましたが、土砂はまだまだ残っていて、完全に無くなるまでには何年もかかりそうです。ぼくは土砂くずれで家がつぶされていたニュースを思い出し、「もしこの下に家があったら大変なことになっていただろうな」と思いました。山がくずれても人がいなかったなら不幸中の幸いだと思います。このような地震による急な土砂くずれでは、人もまきこまれてしまうことも考えられます。そのため、ぼくは、「土砂くずれが起きても人の安全が守られる物を作るか、土砂くずれが起きないようにするためになにか対策をしないといけない」と強く思いました。

もう一つのぼくの近くの土砂災害のひがいは、大雨でくずれた道路わきの山です。道路の近くまで土砂がきてしまい、もっとくずれる危険があるので、道路が通行止めになってしまったり、片方の道路が通れなくなってしまうりました。ぼくの住んでいる地域に「ほう坂とうげ」というところがあり、スポ少に行く時にはいつも通るのです。しかし、大雨があった時には土砂くずれがおきていることがあり、片方の道路が通れなくなっている時があります。その他にも、近くにある二岐山では、大雨がふると土砂くずれで、通行止めのになってしまう時があり、スクールバスが通れない時があります。どちらも、ぼくたちの地域の人達にとって大切な道なので、通ることができなくなるとみんな困ってしまいます。さらに、もしも土砂くずれのことを知らずに車が来てしま

って、引き返すことも進むこともできなくなったら、もっと大変なひがいになると思います。土砂くずれにまきこまれる危険もあります。ぼくは土砂災害のことをニュースで見て、恐いと思っていまいませんでしたが、身近にあった土砂災害から自分や地域の人ひがいを考えて見ると、あらためて土砂災害のどんなところが恐いのかが分かってきました。そして、土砂災害の対策ができるということが分かりました。それは、土砂災害をおこさないようにくずれそうな場所を固めるなどの工事をする事です。でも、地震や大雨が起きないようにすることはできません。そのために、起きてもひがいが小さくてすむようにすることも大切です。ぼくも自分でもできるその具体的な方法を考えてみたいです。

まずは、自分達の住んでいる地域をよく知ることだと思ひます。山や川などの地形のことや、大雨がふったら危い場所を、ふだんから調べ、家族みんなを知っておきたいと思ひます。他の人に自分の命を守ってもらふこともあるけど、まずは自分達の命は自分達で守れるようにがんばりたいです。